

研究者氏名：溝口 昭弘

調査・活動テーマ：訪問型の支え合い活動と身近な地域拠点のあり方について

調査・活動の目的

さまざまな困りごとをキャッチしている亀崎思いやり応援隊（KOO）のメンバーが、半田市社会福祉協議会が開設計画中の「気軽に利用できる地域拠点（相談窓口・サロン）づくり」とコラボし、地域の課題を解決するために、どのような仕組みが必要か研究する。

調査や活動の取組内容および達成状況・成果内容

①これまで地域住民の立場から地域で活動してきた市民団体として、「地域に求められる地域拠点とはなにか」を明確にするため、半田市社会福祉協議会が設置予定の地域拠点亀崎ささえあいセンター「駅前はうす」（以下、「駅前はうす」）において、地域住民または、開設準備会（平成29年4月から月1～2回 全8回）に参加した。地域特性や地域に求められる拠点がどのようなものを伝え、中心となって拠点づくりを進めた。また、訪問活動の際に拠点に求められることを聞き取るなどした結果、改めて住民のニーズや困りごとの把握につながり、拠点づくりへの提案や今後の活動の方向性を検討するきっかけができた。

- 4月28日 拠点づくりの方向性を共有
- 5月24日 拠点の機能について検討
- 6月22日 改修箇所の確認と準備会設置の検討
- 7月13日 「ふくし井戸端会議」開催
日本福祉大学の学生を交えて「地域拠点として望むこと」の洗い出し
- 7月19日 ふくし井戸端会議を踏まえ、拠点開設準備会を設置
「地域の多世代交流の場」としての機能の検討
- 8月3日 「地域の多世代交流の場」としての機能の検討
- 8月23日 「地域の多世代交流の場」の運営および機能の検討および愛称の決定

9月11日 サロンボランティア事前説明会

②「駅前はうす」開所後は、運営会議（月1回）に参加し、「駅前はうす」がより地域住民に活用されるよう、普段の訪問活動の中から寄せられるニーズをもとに、拠点において「地域の課題を語る場」を設けた。

10月30日 地域を語ろう！「私たちの移動手段コミュニティバス」 参加者 20名

2月6日 地域を語ろう！「困りごと相談会」 参加者 15名

③「駅前はうす」開所時にサロンボランティアとして参加し、拠点の活用方法に対するニーズ把握に努め、より活用しやすい設備の設置等を行った。

- 本棚の制作、設置
- ピックアップレールの設置

優れた効果・成果があがった点

①開設準備会を丁寧に重ねたことで、開所前から拠点開設の意義が地域で醸成された。また、半田市社会福祉協議会では把握しきれない地域特性や地域のニーズを伝えることにより、地域住民に受け入れられやすい拠点となり、サロンボランティアへの協力者や来所者を予想より増やすことができた。

◎開所日（毎週水・木・金 祝日休み）

月	開館日数	来所者数	団体利用数	団体利用人数
10月	12日	140人	6団体	77人
11月	12日	115人	4団体	45人
12月	11日	113人	4団体	60人
1月	12日	105人	2団体	25人

◎ボランティア活動者数 35名

②訪問活動の中で、地域課題をキャッチしやすい立場であること、また、地域住民と顔のつながりの

ある自分たちが、地域課題を地域住民同士で話し合う場を設け、声かけをすることで、今まで拠点を活用していなかった住民と共に地域課題を共有することができた。また、同じ地域の中で暮らしていても関わりが薄かった自治区役員、福祉事業所、民生児童委員など、困りごとをキャッチしやすい立場の者同士がつながり合うことができた。

- ③サロンボランティア活動を行う中で、来所者が気軽に拠点の活用方法を提案できる関係作りに努め、その中で提案されるアイデアの実現に向けて、運営会議で議題として検討し、また、提案者と一緒に実現できるよう取り組んだ。

【提案】街角ライブラリー

日本福祉大学 健康科学部 坂口ゼミ
本棚の制作

【提案】街角ギャラリー 写団「虹」

ピクチャーレール設置

委嘱期間終了後の今後の展望

半田市社会福祉協議会が、今後も亀崎地域で身近な相談窓口と地域支え合い活動を推進していくためには、地域住民が「駅前はうす」の機能を知り、集うことで、気軽に相談できる場であることや、住民同士で支え合うことができる場であることを理解する必要がある。そのために、今後も訪問活動や地域の中でコーディネートを行っていくことが K00 の役割だと考えている。

また、これまでも来所者の増加を目的にさまざまな取組を重ねてきたが、更に活用してもらうために、現在の開所日の増加および開所時間の延長を検討していく。